

事業名	学校保健推進費	財務コード (事業)	164704
-----	---------	---------------	--------

細事業名	山梨県学校保健会事業費補助金
------	----------------

担当部課室	教育委員会 部	スポーツ健康 課	保健給食 担当 (内線)	8425
-------	---------	----------	--------------	------

I 事業の概要

実施期間	始期 S58 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	補助(山梨県学校保健会)		
事業の目的	誰(何)を対象に 学校保健関係者	その対象をどのような状態にして 資質が向上している	結果、何に結びつけるのか 児童生徒の健康の保持増進、健康教育の充実
	<p>【事業概要】 県学校保健会が実施する学校保健に係る情報提供や健康教育普及以下の事業に対し、補助を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営費(理事会、評議員会の開催等) ・学校保健に関する調査研究事業(山梨県児童生徒心臓検診事業) ・学校保健思想の普及啓発事業(山梨県学校保健大会開催) ・学校保健関係者の指導および研修事業(各種大会への参加に係る経費) ・学校保健施策への協力事業(各ブロック、部会、研究指定校への助成) 		
事業の内容	※主に23年度		
根拠法令等	山梨県学校保健会事業費補助金交付要綱		

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	22年度	23年度		24年度	25年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標 山梨県学校保健大会参加者人数	280人	300人	290人	300人	300人	目標設定の考え方 過去の実績を参考とし、受講対象者ができる限り全員参加することを目標とする。 データの出典等 参加者名簿
	活動指標達成率 (実績値/目標値)	96.7 %				
成果指標 学校保健委員会の設置状況	61.4% (H21年度実績) *H22年度調査未実施	65%	65.8%	68%	71%	目標設定の考え方 過去の実績を参考とし、地域や学校の実情に応じた体制を整備して、全ての学校で設置することを目標とする。 データの出典等 文部科学省の依頼に基づく、県教委の状況調査
	成果指標達成率 (実績値/目標値)	101.2 %				
決算額、予算額	365	363		362	360	成果指標によらない成果 学校保健会が実施する事業に補助することによって、学校保健の普及・啓発につながり、結果として、12歳の永久歯の平均う歯の本数は年々減少傾向にある(県教委実施「山梨県児童生徒健康実態調査」による)等、児童生徒の健康増進に結びついている。
(千円) うち一財額	365	363		362	360	
所要時間(直接分)	62 時間	62 時間		62 時間	62 時間	
所要時間(間接分)	450 時間	450 時間		450 時間	450 時間	
所要時間計	512 時間	512 時間		512 時間	512 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,021円×所要時間)	1,035	1,035		1,035	1,035	

III これまでの事業の見直し・改善状況

<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度から 定額補助から定率補助(市町村等)法令外負担金の1/2)へ
--

IV 活動量と成果の判断(平成23年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)		
数値判定 H23年度 活動指標 達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 ※数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定 H23年度 成果指標 達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 ※必ず記入すること
b	b	学校保健会が実施する事業に補助することによって、学校保健の普及・啓発につながり、結果として、12歳の永久歯の平均う歯の本数は年々減少傾向にあり(県教委実施「山梨県児童生徒健康実態調査」による)、また学校保健委員会の設置率も年々上がっており、児童生徒の健康増進に結びついている。また、学校保健委員会の設置率も年々上がっており、児童生徒の健康増進に結びついている。学校保健大会の開催、各種研修会参加への助成など、学校保健関係者の資質向上に結びついており、意図した成果はほぼ上げている。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

V 見直しの必要性(平成25年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部評価結果)		
見直しの必要性	説 明	IV以外の判断項目
無		

・「IV以外の判断項目」の欄

○必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) ○官or民(f.民間等実施) ○官の役割分担(g.市町村等へ移管) ○効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) ※行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	IV以外の判断項目

・「IV以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

VI 見直しの方向(平成25年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
現行どおり	

見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、V見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。